

滞在報告

錯体触媒変換化学研究領域 博士課程 1年 野村 颯季

この度、スウェーデンのチャルマース工科大学で Sameera 先生のもと、計算化学を学ぶ機会を頂きました。先生はとても温かく気さくな方で、初日に基礎的な文献と共に方向性を示して頂いた後は、とても自由に試行錯誤させてくださいました。上手くいかなければ自分で調べて手を動かし、翌日先生にお時間を頂いてアドバイスを貰うという形で進めていきました。一ヶ月という短い期間でしたが、計算を行う上でエラーや異常値が出た時に何を参照し対応すればいいか、大枠が理解できたので、今後の研究活動でも実験と並行して手を動かしつつ学んでいきたいと思います。

先生は Department of Space, Earth and Environment 所属の研究者であり、周りの人はスタッフも学生も宇宙物理学者か天文学者のどちらかでした。私は実験化学の学生なので、グループミーティングで宇宙の話を理解できたとは言い難いですが、どのテーマでも最終的にはノイズの大きい大量のデータをどう処理するかが課題であるように思いました。元となるデータは宇宙マイクロ波であったりするので人間が簡単に整えられるようなものではなく、私の知っているものとは全く違う研究課題ばかりで興味深かったです。また化学系だと「自分の分子」が生まれてくるものですが、ここでは皆「自分の銀河」を持っており、ロマンがあるなと思いました。



(左) 席をもらっていた院生室。朝は 8 時ごろから人がいるが、17 時を過ぎると誰もいません。

(右) ストックホルムを観光した際に訪れたノーベル賞ミュージアム。この翌週に化学賞の発表があり、先生と盛り上がりました。